

ドイツ国際交流員から見た 姉妹都市交流



名前 レオナルド・ブリンクマン
出身地 ドイツ・インゴルシュタット（ミュンヘン市近郊の都市）
出生年 1990年
大学 ライプチヒ大学で日本語を専攻。神戸大学国際学部に留学
趣味 チェス、スノーボード、音楽鑑賞、ピアノ演奏

—国際交流員の仕事とはどのようなものでしょうか？

札幌の皆さんにドイツの文化を知っていただくことです。具体的には、自ら企画する「ドイツを知るセミナー」や、授業の一環として子どもたちにドイツの文化を伝える「総合学習」、大通公園で行われる「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」のサポートなどがあります。ドイツからお客様が訪れたときの通訳や、ドイツ語の文章の翻訳も行います。

—札幌の街の印象は？

とても住みやすいと思います。気候が出身地のインゴルシュタットと似ていて過ごしやすく、ビールも美味しい。スープカレーやラーメン、お寿司など食べ物も大好きです。札幌でスノーボードを始めましたが、すぐ近くにスキー場があつて最高！雪が降るのを待ち遠しく思っています。

—姉妹都市提携45周年事業を振り返って、印象に残っていることを教えてください。

2017年9月に市長訪問団の一員としてミュンヘンに出張し、お祝いの行事に参加してきました。一日中、市長の通訳やミュンヘンの担当者との情報交換を続けたので大変でしたが、札幌とドイツ・ミュンヘンをつなぐ「架け橋」として仕事をしていると実感でき、充実した日々でした。

11月には、ミュンヘン市訪問団の3人が札幌にいらっしゃいました。私は滞在中ほとんど一緒に行動していましたが、その中でやりがいを感じたのは、姉妹都市提携45周年記念祝賀会の通訳です。札幌を代表する企業の皆さんや、ドイツと関係の深い方々が100人以上集まる場でしたので緊張しましたが、市長のあいさつをはじめ、歓談の間も的確な通訳ができたと思っています。

ミュンヘンから来訪した3人からは、「札幌市民

の礼儀正しさにとても驚いている」「おもてなしの心を感じる」という敬意と感謝の気持ちを、滞在中に何度も伝えられました。札幌で暮らす者として、とてもうれしく思いました。

—レオナルドさんが考える姉妹都市交流とは？

都市レベルの交流と市民レベルの交流の2つの側面があり、どちらも大切にすべきと感じています。

都市レベルの交流では、お互いの都市の市長などが定期的に訪問し合うことで、経済や技術、文化の先進的な事例を学んで、自らのまちづくりにつなげていけるところが素晴らしいと思います。

また、市民レベルの交流は、何よりも楽しむことが大切だと思います。スポーツや音楽など親しみやすいことこそ、互いの国や街に興味を持つきっかけ

になります。私は、どんな仕事をするときでも、その場にいる皆さんがドイツに少しでも興味を持ち、記憶に残してもらえたら心からうれしいと感じます。

—最後に、今後の札幌とミュンヘンの交流に期待することは？

ミュンヘン市民が札幌をもっと身近に感じられる機会が増えることを望んでいます。札幌では「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」という一大イベントがありますので、ミュンヘン市でも同じような規模で、札幌に親しんでもらえるイベントなどがあるとよいと思います。

2022年には、姉妹都市提携50周年を迎えます。大きな節目に向けて、札幌とミュンヘンの関係を、今以上に深めていく力になればいいですね。

